

## 第5章 土工事施工

### 1) 山留計画

- ・シートパイル自立工法に

### 2) 根切計画

- a. 施工図による。
- b. 施工前下記の確認を行  
地中埋設物の有無を確  
ボーリングデータまた  
近接建物への影響の有  
根切り土量および機械  
天候  
建設機械の確認（排出

### c. 施工完了時の確認

- 根切り深さ
- 法面の勾配
- 地表の凹凸

### 3) 遣形出しを下記の要領で

- (1) 根切途中での位置
  - (2) 遣方を設ける間隔
  - (3) 根切計画図に基づい  
の確認、基礎芯線区  
根切の形状を把握さ
  - (4) 作業員の墜落防止
- 設置する。

### 4) 根切り

#### a. 作業方法

- (1) 根切の際、掘り過ぎ
  - (2) 総掘りの根切底に、  
出しや遣形の設置な
  - (3) 法肩は、シートパ
  - (4) 大量の降雨が予想
  - (5) 根切底周囲には、
  - (6) 使用掘削機械は、0
- 納める。

- (7) バックホウのバケットは、平ツメを使用して行う。

# 見

、養生などを行なう。  
び地下水の状況把握。

)

X - Y方向の逃げ杭を打っておく。

輪郭を描き、敷地と建物の位置関係  
機械のオペレーター、合番の土工に

より最低 50cm の位置に安全柵を

# 本

)チェックを行なう。

は、その都度白線引きによる位置  
する。

入を防ぐ。

て養生する。

つぼ掘を行い、法面は 75 度以下で

(8) 根切りの余幅は、コンクリート面から 500 mmとする。

(9) 掘削順序は、X1 通りから X6 通りへと根切を進め、全体鋤取りを行わず所定の床付面を荒らさないよう注意して行う。

(10) バックホウの掘削は、力により、床付面を荒らさない様  
注意して行う。

(11) 床付を完了後、レ

(12) 根切り土は、構内

(13) 雨等の影響により

力により、床付面を荒らさない様

、碎石を敷き込む。

(別添配置図参照)

、シート等により養生を行う。

#### b. 人員計画

(1) 作業主任者(安全衛生)

(2) 掘削重機オペレーター

(3) 清掃および誘導員

(4) 根切り、床付用機械

(5) その他

#### 5) 床付け

a. 機械で床付けする場合

b. 根切深さのチェックは  
1点とする。

c. 床付面より 50 mm程度残  
う。

d. 床付面はレベルにより

e. 支持地盤を乱した場合  
め固め、若しくは置換

,

チは総堀で3mごとに

支持地盤を乱さないように鋤取を行

にする。

と同等以上の強度となるように締

#### 6) 建設発生土の処理

a. 根切土仮置

(1) 根切土は、場内に置

(10t ダンプ1台)

(2) 置ききれない発生土

(3) 雨等の影響により、

(別添配置図参照)

として使用する。

シート養生)

シート等により養生する。

b. 残土処分

(1) 発生残土は場外処分

(2) 発生土搬出の際は、

(3) 搬出道路は汚さない

(4) 処分地 : 県

(5) 建設発生土受入れ場所案内図

(6) 建設発生土受入れ承諾書

誘導の円滑化を図る。

早やかに清掃を行う。

## 7) 排水計画

- a. 地質的に湧き水、たま意し、発生した時に対
- b. 地質的に相当水が出る  
ディープウェル :
- c. 排水はノッチタンクを

ので、あらかじめ水中ポンプ等用  
ディープウェル工法で行う。

## 8) 埋戻し

- (1) 埋め戻しは、根切土
- (2) コンクリートの豆粒  
補修しておく。
- (3) 埋戻し箇所に、木片
- (4) 柱筋の回りにシート
- (5) 埋戻し土は、粘性土
- (6) 土間下の埋戻し土は
- (7) 機械の入れない建物  
固めを行なう。この  
き加減を見ながら2
- (8) 埋戻し機械が地中  
いて躯体を傷めるこ  
また、機械で転圧す  
画との埋戻しの順序
- (9) 締め固めは、パイプ

り埋め戻す。  
躯体の検査を行ない、必要な箇所は  
行付けを行なう。

り多く入ったものは使用しない。  
を転圧機で締め固めて仕上げる。  
砂)を使用し、水締めによる締め  
状態とすることのない様、水の引

マッシュオン材とし、さらに鉄板を敷  
力)をかけないように近接した区  
行い、必要に応じて水締めを行う。

## 9) 砕石地業

- a. 材料
- (1) 砕石は、切込砕石、
- (2) 産 地: 県
- (3) 製造業者: 産  
・ JISA1102 による

成績書を提出する。

### b. 敷込み(基礎下)

- (1) 砕石を搬入後、一軒  
に厚さ 100 mmを敷き
- (2) 床付面を通行する場
- (3) 締め固めは 60 kgバ
- (4) 床付面の排水の状態
- (5) 敷巾は、各躯体巾より片側 100 mm以上広くする。
- (6) 締め固め後、レベル測定器により高さの確認を行う。

棒等により高さを決定した床付面  
う。  
のため、必要に応じて散水する。

c. 敷込み（土間下）

- (1) 砕石を搬入後、バール等で鉄筋棒等により高さを決定した床付面に厚さ 100 mm を敷く。
- (2) 締め固めは 60 kg バールを使用する。
- (3) 床付面の排水の状態を確認し、必要に応じて散水する。
- (4) 締め固め後、レベルを測定する。

10) 土間下防湿層

- a. 土間下防湿層は、ポリイソブレンシートを使用する。
- b. 防湿層の重ね合わせは、100 mm 以上広く止メ枠を設置する。

11) 捨てコンクリート地業

- a. 材料
  - ・ 指定強度等 FC 18N
  - ・ 最大骨材径 25 mm 以下
  - ・ 生コン製造業者

b. 打設

- (1) 捨てコンクリート厚さは、100 mm とし、遣方杭に基づいて正確に位置出しを行ない、天端均しとする。
- (2) 砕石地業完了後、100 mm 以上広く止メ枠を設置する。
- (3) 捨てコンクリート打設後、天端均しを行い、100 mm とし、遣方杭に基づいて正確に位置出しを行ない、天端均しとする。
- (4) 捨てコンクリート天端均しは、木ゴテ等で行い、天端均しは、木ゴテ等で行い、天端均しとする。
- (5) 捨てコンクリート天端均しは、木ゴテ等で行い、天端均しとする。
- (6) 打設はポンプ車にて行う。
- (7) 天端均しは、木ゴテ等で行い、天端均しとする。

12) 管理値

- a. 砕石厚さの許容差は、 $\pm 5$  mm と定め、検査、報告書を作成する。
- b. 捨てコンクリート上面の管理値は、 $\pm 5$  mm と定め、検査、報告書を作成する。

13) 記録

- a. 写真撮影箇所



根切り 根切掘削機  
掘削状況  
床付状況  
完了

発生土処分 置場  
搬入  
搬入  
整地

砕石地業 材料  
締固  
厚さ  
完了

捨てコンクリート地  
打設  
厚さ  
レベル  
完了

埋戻し 埋戻  
締め  
完了



14) 検 査

a . 自主検査

項 目	
遣り方	スケ-
根切り時	目 視
外周部	目視
床付け	レベル

	施工業者	担当係員	備 考
			埋戻し時まで

b . 社内検査

(1) 項目

- ・ 根切り底を掘削
- ・ 地業工事
- ・ 砕石の厚み、材
- ・ 捨てコンクリー
- ・ 埋戻し各層の仕
- ・ 深井戸作成手順
- ・ シートパイル自

15) カタログ類

建設機械資料

見

本